

目次

はじめに―法史学は実践的な学問である―

第一部 家族法制と裁判

第一章 家族法史研究の現状と課題

はじめに	2
第一節 全般的動向	4
第二節 戸主	7
第三節 婚姻慣行	9
第四節 氏	11
第五節 婚姻の成立	12
第六節 夫婦財産関係	18
第七節 妾	19

第八節 離婚 21

第九節 親子 24

結びにかえて 26

第二章 「親族」概念と家族 28

はじめに 28

第一節 江戸時代の親族 29

第二節 明治時代の立法上の「親族（属）」 30

第三節 法外的な同族集団 36

第四節 同族と親族による家族包摂 36

結びにかえて 37

第三章 家族法制とジェンダー——「親権」概念の形成—— 39

はじめに——二重のジェンダー・バイアス—— 39

第一節 家長（戸主）権と親権 40

第二節 法典編纂過程における親権規定の変遷 44

A 旧民法第一草案とその修正 45

B 旧民法（公布）の成立 50

C 法典論争の意味 54

第三節 親権に関する判決例	62
結びにかえて	64
第四章 明治前期の民事判決例にみる妾の法的地位	67
はじめに	67
第一節 妾関係判決例一覧	70
第二節 夫妾関係の成立とその効果	74
A 夫妾関係の成立	74
B 妾契約の履行	75
第三節 夫妾関係の解消	81
A 離縁請求	81
B 妾離縁後の親権	84
C 家督相続と妾	85
結びにかえて	90
【付録】 明治前期の妾関係判決	93
第五章 離婚裁判法の日台比較	162
はじめに	162
第一節 近代日本における離婚裁判法の展開	163

A	妻の離婚裁判権の創設と離婚訴訟統計	163
B	離婚裁判法の展開	164
C	離婚判決の法源	167
第二節	日治期台湾における離婚裁判法の展開	172
A	台湾における日本法の適用	172
B	台湾総督府法院の離婚裁判	173
結びにかえて		187
第六章	明治前期の判決例にみる女性と相続	191
はじめに		191
第一節	法令と伺・指令にみる女性と相続	192
A	長男子相続主義の緩和	192
B	女性による中継相続	194
第二節	判決例にみる女性と相続	197
A	子女・養女	197
B	遺妻（寡婦）	206
C	母親	211
結びにかえて		216

第二部 家族法論

第七章 旧民法の家族法観とボワソナード

第一節 旧民法（家族法部分）の編纂過程

第二節 旧民法第一草案とボワソナード

第三節 民法典論争とボワソナード

第八章 岸本辰雄と横田秀雄の民法（家族法）理論

はじめに

第一節 フランス民法の受容と旧民法——岸本辰雄——

A 自然法論 236

B 婚姻契約論 237

C 財産相続論 238

D 法理論の変質 239

第二節 明治民法の制定とその運用——横田秀雄——

A 横田秀雄の経歴 242

B 大審院長への就任と信条 243

C 著名な民事判決 244

結びにかえて

250

242

235

232

232

227

224

222

222

補論 福澤諭吉と明治民法の家族観 251

第九章 穂積陳重博士の相続制度論

— 相続進化論と明治民法における「家」 — 254

はじめに 254

第一節 相続進化論 258

第二節 慣習尊重論 261

第三節 相続法論 267

A 遺産分割主義 267

B 家督・遺産相続 271

C 遺言・遺留分 274

第四節 祭祀相続論 279

結びにかえて 286

補論 明治期贈与論考 — 穂積陳重・梅謙次郎の所説を中心に — 288

はじめに 288

第一節 穂積陳重の贈与論 290

第二節 梅謙次郎の贈与論 298

結びにかえて 302

あとがき